

令和6年度(2024年度) 学校評価総括表【伊丹市立稲野小学校】

教育目標		人間尊重を基盤として 豊かな心と健康な体を持ち 主体性・連帯性のある子どもを育てる ーいきいき なかよくのびのびと 笑顔あふれる 稲野小学校ー						
重点目標		(1)「わかる授業」「楽しい授業」を実現し、主体性を育む研究の推進する。 (2)互いに認め、励まし合う、心の居場所としての学級作りに努める。 (3)いじめの未然防止に努め、いじめ事案、不登校傾向児童に対して、組織的に早期対応を図る。 (4)教職員全員が認め合い、高め合える風通しのよい協働的な風土を醸成する。 (5)学校情報を積極的に発信し、地域とともにある学校作りを進める。						
主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成 学校教育	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	①個々の教師の資質を向上させる。 ②子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じた教育を推進する。 ③家庭と学校をつなぐため、学校情報を積極的に発信する。	・校内研究授業を行い教師の資質向上に努める。 ・校内研修の枠を広げ、自主的に授業公開を行い、互いに見合う機会を増やす。 ・パワーアップ研修などにより具体的な研修を行い、個々の教師の資質を向上させていく。 ・どのように振り返るか学年・学校全体で共通理解を図る。 ・子どもの考えによりそい、子ども一人ひとりが安心してすごせる居場所作りに努める。 ・課題に対して出た子どもたちの疑問を「めあて」とし、子どもたちの主体性を伸ばしていくようにする。 ・ホームページを通して学校情報や学年からの情報を積極的に発信する。 ・「学校だより」、「学年通信」を充実させ、学校の情報を積極的に発信する。	・各学年授業を公開し、授業研究に努める。 ・パワーアップ研修を年間4回程度行う。 ・全ての教師が、年間10回以上授業を見る。 ・わからないことを自分から質問できるようにする。 ・児童のアンケートの「学習でわかりにくいことを、先生に質問しやすい」の項目で、肯定的評価が70%以上になる。 ・週に1回以上ホームページを更新し、日常の学校生活を伝える。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」の項目で肯定的意見が90%以上になる。	B	・お互いの授業を見に行く期間を見級週間とし、授業力の向上に努めた。だが、実際は授業を見に行くことは難しかったようだ。 ・パワーアップ研修の計画が昨年度はほど実施できなかった。 ・研究授業の前には、事前授業の実施をを伝えることで、職員の意識を高めた。 ・児童アンケートの「授業はわかりやすくて、楽しい」の項目、肯定的評価が83.1%以上になる。 ・子どもの考えによりそい、一人ひとりを見ることで、安心できる場所づくりができた。 ・児童アンケートの「学習でわかりにくいことを先生に質問しやすい」の項目で肯定的評価が70.3%だった。 ・ホームページの更新が滞ってしまった。 ・保護者アンケートは、89.8%だった。継続的に発信できるよう仕組み作りを行う。	・見級週間を設けてみたことで、お互いの授業を見に行くということが難しいという現実がわかった。その代わり放課後の研修の機会を増やしてはどうか。 ・子どもたちの実態を見つめ、児童の課題や、教師側のねらいを明確にして、継続的に取り組む必要がある。 ・パワーアップ研修にも職員の要望を取り入れていきたい。 引き続き児童にとって分かりやすく、興味を持って取り組めるような授業作りをしていく。 ・学年の情報担当を中心に、大きな行事の際には、HPへのアップを行う。 ・わかりやすい発信ができるようにHPの内容を更新する。	・まなびポケットがどんなものか、実際に使ってみたい。 ・パワーアップ研修の教師のニーズの把握と地域人材の活用を
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①学習活動において、タブレット等の情報機器を適切に使い、情報を得る力や情報モラルを養う。 ②・中学年でア「聞くこと」、イ「話すこと」を中心に英語に慣れ親しみ、コミュニケーションを図る素地を養う。 ・高学年でウ「読むこと」、エ「書くこと」を加え、コミュニケーションを図る基礎を養う。 ③欠席連絡やお手紙のデジタル配信	・学活や道徳、いなほの時間等を活用して、調べ学習を積極的に行う。 ・タブレットの使い方について、継続的に指導する。 ・必要に応じて講師を招き、情報モア)チャンツやスモールトーク、場面設定のある会話表現などを繰り返し聞き慣れ親しむ。 イ)ベアやグループでの会話の場を設定したり、スピーチ活動に取り組む。 ウ)教科書の内容やALTの紹介文などの読む活動をする。 エ)アルファベットや各単元で学んだ単語、表現をワークシートで練習したりスピーチ原稿作成に取り組んだりする。 ・全校に配る手紙はデジタル配信を原則とする。	・学習用端末を含めた情報機器のよき使い手となる。 ア)日本語と外国語の音声の違いに気付いたり、基本的な表現を聞いて意味が分かるようになる。 イ)アイコンタクト、ジェスチャーなど相手により伝わるよう工夫しながら話す。 ウ)基本的な語彙や文を推測しながら読むことができる。 エ)アルファベットの大文字小文字が書ける。4線上に語彙や表現を書いたり語順を意識しながら、例文等を参考に書くことができる。 ・保護者との連絡手段としてデジタル配信が浸透する。	B	・情報モラルに関する教育を学年に応じで行ってきたが、トラブルが発生している。トラブルから学ぶ姿勢を持てるように継続的に指導していく。 ア)聞く活動を十分取り入れた。 イ)ベアやグループ活動、そしてスピーチ活動を有効的に活用し、コミュニケーションを図るような場を設定した。また相手进行の気持ちを忘れないように留意した。 ウ、エ)教科書や参考文献などで読む活動を行い、ワークシート等で書く時のルールや4線上の書き方などの意識をしながら書く練習をした。 ・連絡手段としてのデジタルは浸透してきているが、システムの切り替わりにより混乱が考えられる。丁寧な情報発信が必要。	・タブレットのきまりを再度徹底するとともに、代替があるため新たな気持ちで情報機器の良き使い手となるように指導する。 引き続き児童にとって分かりやすく、興味を持って取り組めるような授業作りをしていく。 ウ、エ)教科書や参考文献などで読む活動を行い、ワークシート等で書く時のルールや4線上の書き方などの意識をしながら書く練習をした。 ・発信方法等について、検討していき、使いやすい状態を作っていくたい。	デジタルを活用する力がつくと同時に、弱ってきた力があるのではと心配する。
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①豊かな心を育む道徳教育の推進 ②・いじめの未然防止に努める。 いじめへの早期発見、早期対応を図る。 ③不登校傾向児童への早期対応を図る。 ④学年に応じた体験活動を実施する。	・実生活に合った道徳、人権教育の授業に取り組む。 ・教科書を中心にして、「こころはばたく」などの心シリーズを十分に授業で活用する。 ・『月目標』を設定し、全児童、全職員で取り組む。 ・日記やチェックシート等を活用し、子ども一人ひとりの状況とその変化を継続して把握する。 ・子どもと一対一で懇談する時間を設定する。(随時) ・毎日、児童のよいところを見つけてほめる。 ・休み時間の様子を把握する。 ・研修会を開き、職員間でいじめについての理解を深める。 ・保護者、担任、不登校対策支援員、学校カウンセラー、SSWとの連携を深め、児童への働きかけを行う。 ・担任だけでなく、学年や全職員で情報共有し、共通理解を図る。 ・社会見学や自然体験活動、平和学習などの校外学習及び、校内行事の充実を図る。	・他人に対しての「思いやり」と自分の「あきらめない気持ち」をもって学校生活を送ることが出来る。 ・児童アンケートで「自分を大切にすることや友だちを大切にすることについて学んでいる。」の項目で、肯定的評価が90%以上になる。 ・児童アンケートで「なやみや不安があるとき、だれかに(先生や友だち・親など)に相談できる」の項目で、肯定的評価が80%以上になる。 ・早期対応に努め、不登校児童を出さないようにする。 ・各学年、事前学習や事後学習を行い、体験したことを学びにつなげる。 ・「学校行事などは楽しい。」の項目で肯定的評価が90%以上になる。	B	・児童の実態に合わせて、道徳的心情や実践意欲を高めるための授業や学級の指導、生活指導、職員研修を行った。 ・児童アンケートで「自分を大切にすることや友だちを大切にすることについて学んでいる。」の項目で、肯定的評価が93%であった。 ・「相談しようと思う人がいる」に対する肯定的評価は、74%→69.4%と減少した。話しやすい環境作りが求められる。 ・いじめアンケートでの認知件数の総数では16件であった。各担任にはアンケート必要がある。いじめと「認知」された事案の中で、必要があれば、「いじめ対策委員会」を開催し、改善策等を講じる。 ・現在は5名が相談室を利用している。現時点で100日以上欠席している児童は3名いる。(R6、2月末現在)別室登校や放課後登校、関係を切らないための課題や連絡のやり取り等、継続して取り組む必要がある。 ・各学年で、発達段階に応じた社会見学、自然体験活動、平和学習を計画していた。 ・「学校行事などは楽しい。」の項目で肯定的評価が96.8%であった。	・実生活だけでなく、教材を通して、望ましい行動や心情を学び、実生活での他者への思いやりや自分自身の言動につなげていけるように、研修などの取り組みに努める。 ・「心シリーズ」の活用について、活用の手引きなどを使い、教科書と照らし合わせて、効果的に取り組んでいく。 ・アンケートで把握した事例については、丁寧に聞き取りを行い、「いじめ認知」の判断に迷う場合は、必ず学年や生徒指導担当に相談する。その際、そうした情報を学年で十分に共有しておく必要がある。いじめと「認知」された事案の中で、必要があれば、「いじめ対策委員会」を開催し、改善策等を講じる。 ・相談室があることで、登校につながっている子がいる。教職員の配置など再考しながら、引き続き運用できるようにする。 ・体験活動の充実をはかっていく。 ・全ての児童にとって達成感や充実感を感じられるよう、行事内容を考える。	「相談しようと思う人がいる」の評価が下がった理由は何か。子ども同士は相談できているのか。
	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①自らすすんで体力を向上させようとする意欲を育てる。 ③全校生に食に関する興味や関心を持たせ、健康に過ごすことへの意欲を育てる。	・体育施設の割り振り方の工夫や、学習内容を系統立てた「がんばりカード」などを用いて体力の向上を図る。 ・「パワーアップタイム」を充実させる。 ・スポーツパッチの取り組みを保つ。 ・2年生の児童に対し、食に関する指導を実施する。 ・給食委員会で、全校生に食に興味を持ってもらえるような取り組みをする。	・学年に応じた「がんばりカード」で自分の伸びを記録し、設定した目標を達成させる。 ・全員すすんで外で運動するようになる。 ・食に興味を持つ子が増える。 ・給食の残食を減らす。	B	・「がんばりカード」に自分の伸びを記録し、主体的に目標を達成しようとする姿が多く見られた。 ・熱中症指数が高い9月は特別時間割を設定し、体育館や稲小ホールで全学年が体育ができるようになった。 ・各クラスで残食を減らすよう取り組んでいる。しかし、残食はまだあるので、引き続き声かけをしていく。 ・委員会の児童がいろいろな企画を考えて全校生に食について考える機会を作ることができた。	・引き続き「がんばりカード」の活用を進め、主体的に運動に取り組む児童を育成する。 ・作成した教材はデータで保存する。 ・来年度も引き続き各クラスで声をかけていく。 ・来年度の委員会活動でも全校生に呼びかけていけるよう、今年度の委員会から引き継ぎをする。	・水泳の時間が少なくなっていることは、市はどのように考えているのか。 ・残食はどうなるのか。 ・体操服を忘れた児童への指導はどのようにしているのか。

	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①キャリア教育全体計画に基づき、各学年の年間計画を進めていく。 ②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連絡を取り合う。 ③保護者の悩みに寄り添い、教育相談等へつないでいく。	・キャリアパスポートを活用する。 ・各学年の年間計画を実施していく。 ・教育相談を随時行う。(担任、学年、生指担、支援員、SC、SSW、管理職) ・気になる児童については、学年を中心に、管理職、生指、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、支援員、SC他、多方面からの情報を収集し、分析・検討しながら、適切な支援のあり方を模索する。 ・懇談等で保護者から聞き取ったことを学校全体で情報共有していく。	・キャリアパスポートを記入する。 ・年間計画に基づき、授業を実施する。 ・専門機関を交えて、適切な支援方法を考え、実施する。 ・懇談会等で保護者から相談を受けたことを早急に学年・学校で検討し、悩みに応じて教育相談等につなぐ。	B	・年度初めにキャリアパスポートを活用して目標を設定した。年度途中と年度末に自分を振り返り、成長を実感させることができた。 ・教育相談は、巡回相談や医療発達相談を随時行っていて、適切に対応できた。 ・部会や、日頃の報告・連絡を通じて情報を共有・検討し、適切な支援を模索できた。 ・保護者から相談を受けたものは、適切に関係機関につなぐことはできた。	・引き続き自分で目標設定し、その都度振り返り、成長を実感させる。 ・今後も、巡回相談や発達相談を行い、保護者・教職員にも周知をしていく。 ・引き続き、報告・連絡を密にして、適切な支援を模索していく。 ・今後も、懇談などで出た相談内容を元に適切な機関へとつないでいく。	
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	②支援を必要とする子どもたちについて、集団参加・学力・身体的補助などの面から合理的配慮を含む取り組みを考えていく。	・特別支援学級では、個に対応し、確かで豊かな発達と社会性を育てる授業の工夫を行う。 ・交流学級においては、クラスの一員としての集団への参加や意欲を育て、お互いに助け合い、共に生きていこうとする力を培っていく。 ・子どもたちのこと、保護者の願いについての理解を深めるための研修会をもつ。	・個別の指導計画を立て、それに基づいた授業や支援を行う。 ・クラスでの居場所作り、学校行事に自分なりに目標を持って参加することができ。 ・二者懇談会、三者懇談会を通し、保護者の願いを聞き取り、職員の研修会を通し、全職員での把握に努める。	B	・個別の指導計画に基づいて授業や支援を行うことができた。 ・毎週シフトを組み、必要に応じ入り込み支援を行い、自分なりに目標を持って行事等に参加することができた。 ・人手不足でどうしても支援に入れない時があった。 ・懇談会や日々の連絡帳のやりとりを通して保護者の願いを聞きとり、それを職員研修会で共通理解できるよう努めた。 ・転籍を考えている児童に対して特別支援学級での学び、学習を行った。	・できるだけ支援に入れるように、今後もシフトを工夫する。	
	教職員の資質向上 ①研修等の充実	①授業力向上や児童対応など、さまざまな研修を計画的に実施する。	・校内研修の枠を広げ、自主的に授業公開を行い、互いに見合う機会を増やす。 ・パワーアップ研修などのより具体的な研修を行い、個々の教師の資質を向上させていく。 ・夏季研修会の充実を図る。	・各学年授業を公開し、授業研究に努める。 ・パワーアップ研修を年間4回程度行う。 ・全ての教師が、年間15回以上授業を見る。 ・学校の現状に合わせた研修会を実施する。	B	・お互いの授業を見に行く期間を見級週間とし、授業力の向上に努めた。実際は担任がクラスを抜けて、他のクラスの授業を見に行くことは難しかったようだ。 ・パワーアップ研修の計画が昨年度はほど実施できなかった。	・研修や公開授業を通して、教師側の疑問や悩みを解消し、納得できるものを得ることができれば、教職員の資質向上は上がる。そのためにも、研修や研究内容の充実を行っている。	
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	①教育目標や教育活動、子どもたちの現状や課題について、保護者や地域との共通理解を深める。 ②地域と学校が目標や情報、課題意識を共有し、連携して地域の特色を生かした教育活動に取り組む。	・子どもたちの現状や課題について、地域と教職員とが意見交換し、共通認識を持つ機会を設定する。 ・引き続き、地域、PTAと連携しながら「見守り隊」参加者の増員を進める。 ・学校や子どもたちの課題を見つめ、地域と連携した具体的な教育活動の計画を進める。 ・地域の力を借りながら、子どもたちを育む教育活動を展開する。(畑づくり、町探検、九九チェック等)	・地域と教職員と連携し、創立150周年記念式典に取り組む。 ・見守り隊募集の手紙を作成し、呼びかける。 ・地域と連携した具体的な教育活動について協議し、実践する。 ・具体的な取り組みについて振り返り、課題を共有して次年度に活かしていく。	B	・学校運営委員会で、子どもたちのふだんの様子を見ていただくことができた。(参観・給食試食) ・2年生・3年生の九九チャレンジや畑作り、町たんけん、昔の話を聞く会についても地域の方々のご協力を得て実施できた。 ・見守り隊、PTAの方々との情報交換し、通学路の変更などにつなげた。 ・150周年記念式典を地域の方とともに祝うことができた。また、図書・園芸ボランティアの方々には掲示・環境整備の面で多大なご協力をいただいた。 ・今年度の地域連携の取組の成果と課題を教職員、学校運営委員で共有した。	・来年度も地域と教職員が協働する場を設定し、子どもたちにとってよりよい取組となるよう改善を図っていく。 ・地域やPTAに協力を依頼する場合は、今後できるだけ年度当初より情報を伝えられるようにする。	・地域と連携した取組はPDCAサイクルで見直されているのか。引継がちゃんとなされているのか。地域を軽んじている気持ちはないか。
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	①組織として対応できるように、また個々の教師の資質を向上させる。 ②教師が、火災・防犯・地震の基本的な知識を知る。 ③毎月、登校指導を行い、共通理解する内容を出し合う。学級毎に指導する。 ④毎月、安全点検を行い、児童が安全に学校生活が送れるように環境を整備する。 ⑤職員の意見をもとに、働きやすい環境作りを行う。	・夏季休業中に不審者対応研修を設定し、教師の動き、急行班の動き、学び、学校全体の連絡体制の確認をする。 ・防犯訓練の事前指導を行う。 ・担当が作成した資料をもとに、火災・防犯・地震の避難訓練の前と後に学級指導を行う。 ・毎月、登校指導を行い、通学路の交通状況と児童の登校実態を教師が把握する。必要に応じて、危険箇所や安全な登下校の仕方を学級指導する。 ・安全点検で不備を把握し、管理職に修繕依頼し、速やかに対処する。 ・定時退勤日やノー会議デーを設定する。 ・業務改善委員会を設置し、適宜会議をもつ。	・児童は、校内に不審者が侵入した際に、安全な避難行動をとることができる。 ・教師は、緊急時における児童の安全確保と状況に応じた対応をとることができる。 ・児童が自らの生命や身体の安全を守るために必要な知識と態度を身につける。 ・放送をよく聞き、指示に従って落ち着いて避難するとともに、避難経路を知る。 ・保護者アンケートの「学校では、児童の安全に関する適切な指導及び対応が行われている。」で、肯定的評価が90％以上になる。 ・通学路の危険箇所を知り、安全に登下校できるようになる。 ・保護者アンケートの「学校では、児童の安全に関する適切な指導及び対応が行われている。」で、肯定的評価が90％以上になる。 ・定時退勤日やノー会議デーを周知、実施する。 ・職員からの意見をもとに、改善策を考え、実施する。	A	・不審者避難訓練を実施し、安全な避難行動をとることができた。 ・教職員は不審者対応訓練を実施し、児童の安全を確保するための行動を考え、対応した。 ・新しい資料を作成し、資料を有効活用して事前指導を行った。 ・保護者アンケートの「学校では、児童の安全に関する適切な指導及び対応が行われている。」で、肯定的評価が90％以上だった。 ・毎月登校指導を行った。 ・交通ルールやマナーを守れていないこともあり、その都度学級指導をした。 ・保護者アンケートの「学校では、児童の安全に関する適切な指導及び対応が行われている。」で、肯定的評価が90％以上だった。 ・全職員で安全点検に取り組み、修繕が必要な箇所にすばやく対応できた。 ・職員の共通理解のもとに、働きやすい職場環境作りを目指した。 ・業務改善委員会やそれに関わる夏季研修を実施し、業務改善の手立てを考え実行した。成果が現れてきている。	・引き続き有事に備えて訓練を行う。 ・資料を活用しながら、児童にわかりやすく安全指導を行う。 ・普段から放送が始まったら静かに聞くことを機会があるごとに、指導して身につけさせる。 ・引き続き全職員で登校指導を行い、多くの目で子どもたちの交通ルールやマナーの現状を把握し、適切な指導をしていく。 ・引き続き安全点検を行い、学習の場として安全であることに努める。 ・遊具においては複数で点検する。 ・引き続き、速やかに修繕が進むよう、声かけしていく。 ・今後も全職員の共通理解のもと、働きやすい職場づくりに皆で参画していく。 ・引き続き、学校運営協議会や保護者に向け発信し、理解を得ながら取り組みを進める。	

学校関係者評価総括

- ・地域と学校が課題を共有し、子どもがすくすくと育つ取組が必要。
- ・新年度早い段階から、学校がどのようなものを求めているのか発信を。
- ・学校側から必要性を発信し、一つの目標に向かって連携してしていきたい。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・PDCAサイクルを活用した、地域と学校と連携した取組
- ・相談体制の充実

自己評価の基準 **A**: 目標を上回った **B**: 目標どおりに達成できた **C**: 目標をやや下回った **D**: 目標を大きく下回った